

頭書
大全

世界圖畫

附錄

六

こかろおよりがらひいといふ天文の地學といふ
 義を此箇条に於てハ地球と一個の遊星と
 見做し他の遊星と共に大陽の周圍を廻て四時
 寒暑の變化と起るかどのよと論じ第二箇条
 と「ひ」かろおよりがらひいといふ自然の地學
 といふ義を此箇条に於てハ海陸山川の區別
 草木禽獸の異同物産時候風雨雪霜の模様等と
 論じ第三箇条と「わ」かろおよりがらひいとい
 ふ人間の地學といふ義を此箇条に於てハ

人種言語の品類風俗政体の異同文學技藝の巧
 拙文明開化の前後等と論じ

天文の地學

此世界も一個の遊星を遊星とハ圓き物にて
 空中に浮び日輪の周圍を廻て日の温氣と光と

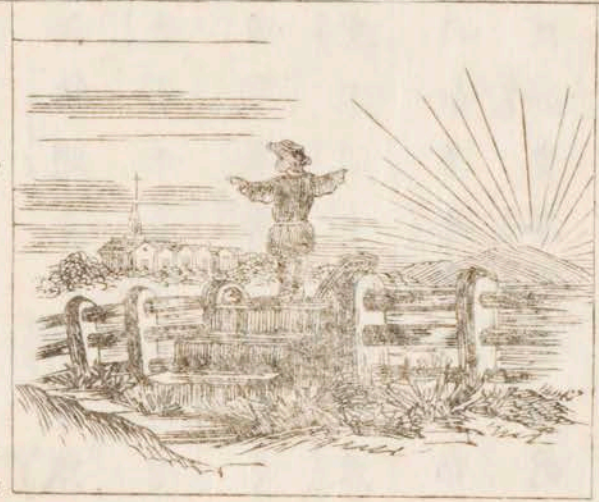


と受る星を此日輪に附屬の
 遊星數多しきども大ひなるも
 のハ唯八個のミ即ち地球も其
 存の一ふに地球の圓き證據ハ

船小乗て大洋より陸と昧る不始ハ山の頂のミ
 と見付け次第小陸へ近づくと従ひ麓に低き處
 も見るべし又地球の影の月不映むるは八月
 食と起まその影からむ圓一影圓もさバ其物
 も圓きふと知る也一
 地球の周圍を一萬三千五百五十五里余を南北と
 軸おして西より東へ轉び十二時の間一廻と
 終らぬれと一昼夜とを即ち地球の自轉を斯
 く自から轉びかぐと三百六十日二介五厘の間

小日輪の周圍を一廻して本の處に歸るふを
 一年とす即ち地球の公轉を斯く日輪の周圍
 と轉廻する間も或ハぬれお近づき或ハぬれお
 遠ざかり且其光を真直に受ると斜に受ると
 由て寒暑一様ならず四季の變化もたがたり小
 生も但し赤道と界めて四時相及し日本など
 の如き赤道以北の國の夏ハつふたたらを等
 如き赤道以南の國の冬なり本文南亞米利加
 の篇小池鯉の國の冬ハ我夏ふると記しとるも

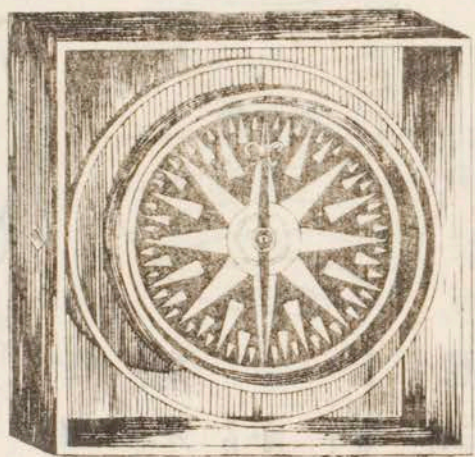
此國ハ赤道の南不在也一夏冬相反是也



方ハ南を以て四の方角と羅針盤の本点と名
く羅針盤ハ航海ノ欠くおらざり道具ハ唯

右此手にて日の出の方を指し
左の手にて日の出の方を指し
この方東を左の手ハ日
の入り方と指しこの方西
その面の向ふ方ハ北を背
その面の向ふ方ハ北を背

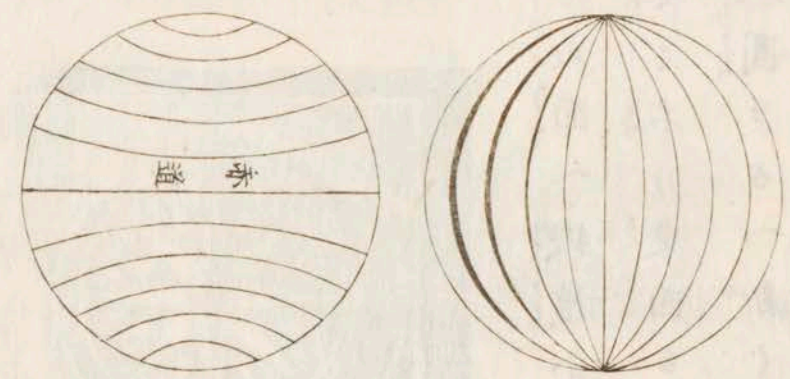
羅針盤の圖



地球の面へ縦横小線と引き南北に通る線と子
午線と名け東西に通る線と平行線といふ地球
の状圓き也一斯く縦横小引通しとる線の状も

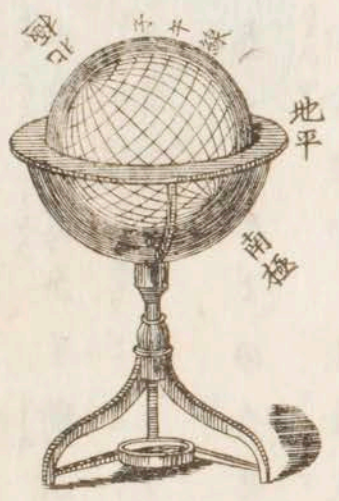
四方のミから東西南北
南北此間を分ち又其
間を小介して細小こ
れと盤面を記しその
方角小従て船の道筋
と定るものなり

子午線 平行行線



圓くして輪の如く、
 輪と三百六十度に分て、
 一度と名け東西小刻と
 と經度といひ南北小刻と
 と緯度といひ平行線と以て
 南北の緯度と計るハ真中
 の赤道と本にして勘定と始
 む譬へば地理の圖書中北
 緯三十五度といへば赤道よ

地球儀 經度緯度 時刻

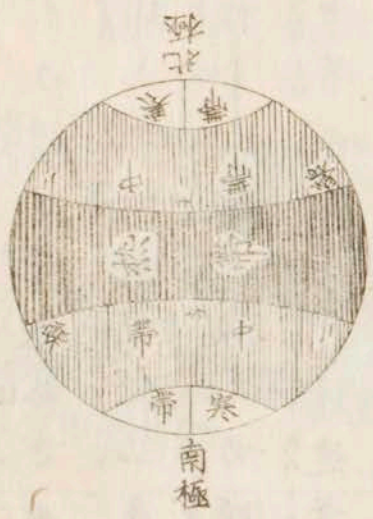


北の方三十五度、
 又ハ亞米利加の
 緯の方も、
 勝手次第、
 大抵地理書ハ
 英吉利

の天文臺、
 へバ英吉利の天

文臺より東の方百四十度不當といふと
 て丁度日本國の處か
 七十七度南緯四十七度三十分
 篇ふも新おいらんどの人と英吉利の人とハ足
 のりくと向合せおいて昼夜相反するとの
 と記せし
 地球の周圍ハ英の里法おて二萬五千里
 本の里数よき一萬三百五十里余り故
 ぬきと三百六十割する一度ハ二十八里七合

六分四角余は當る但しぬきハ赤道の處おて測
 りしものおて南北の方お近よきバ次第は短く
 なる其極は至きバ何もなくかる理なり
 赤道より北と南へ二十三度半づゝの處は線
 引きぬきと二至線と名けぬの間ハ時候熱故



熱帯と名く又南北の極
 赤道の方へよりぬきと
 二十三度半づゝの處は線
 と引きぬきと極線と名く

熱帯諸國の獸類



此の間ハ時候寒き由一寒帯と名く極線と二至
 線との間ハ四十三度の廣さゆゑ此の間ハ時候
 程よく春夏秋冬の順序正しき由一中帯と名く
 中帯の人を身体達者にして氣力ゆゑ文明開化
 の極度に至る一帯の唯此
 方角不の諸國の歐羅巴
 北亞米利加之合衆國支那日
 本等皆中帯内はゆゑ熱帯
 の地ハ草木よく生長し獅

駝鳥

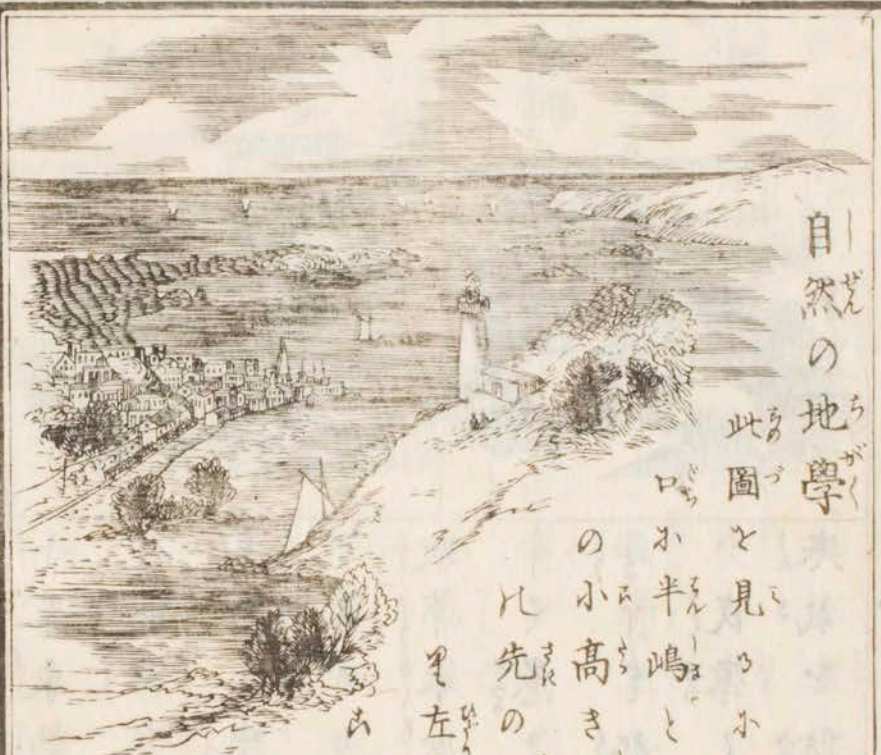


寒帯の獸類



子犀象豹虎蝮蛇等多一又或
 ハ駝鳥やげハ大ハナ
 鳥ゆゑ中帯寒帯ハ絶て
 きよのなり寒帯の地ハ禽
 獸草木少く人の身体小短
 一愚才を獸類ハ白熊馴鹿
 等やを都て寒地ハ生む獸
 ハ皮厚くして毛深し天然
 寒氣と防ぶゆゑなり

自然の地學



此圖と見り小遠景ハ大洋ホ一河
 口ハ半島と二三の小島ハ右手
 の小高き處ハ燈明臺ハ左
 比先の方ハ突出ハ岬
 左手ハ市中繁昌
 其の模様と見て
 地理の區別
 と知れ地學の大趣
 意と合点を

本篇小もいへる如く地球の面三分ハ海ホ一
 一分ハ陸ホ一の陸地を三小カチ亞細亞阿非
 利加歐羅巴と東の半球と一或ハ旧世界といふ
 南北亞米利加と西の半球と一或ハ新世界とい
 ふ大洋洲も亦別ハ一世界ホ合せて三世界
 ナリ或ハ此を三大地と名く西洋の語ホい
 ちねんとさハ不廣く續き一土地といふ義ナリ
 嶋とハ四方ハ海ヨリ土地ホ譬ハ英吉利麻
 田糴輕久場等の如き皆嶋國ナリ

半嶋とハ三方水ホ一て一方の大地は續きた
るよふ日本ホていハ肥前の嶋原の如き

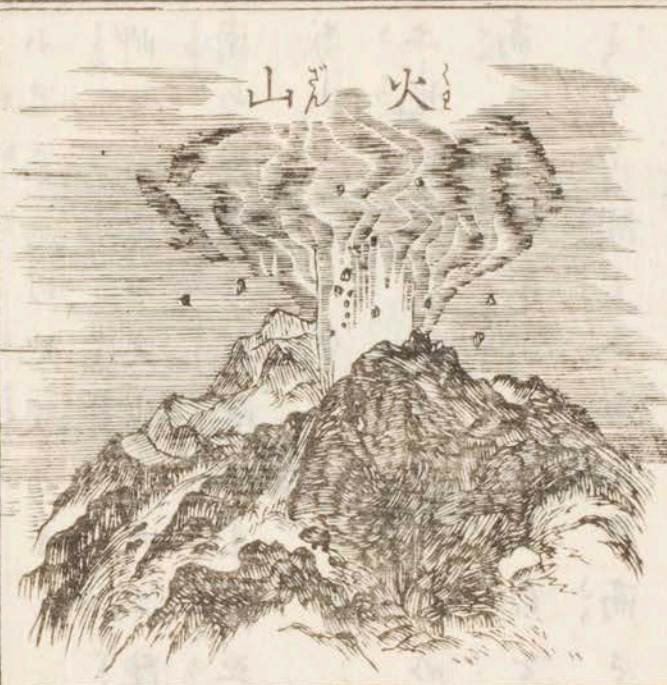
嶋半の地狭の圖



地峽とハ大洲と大洲と續
く處又ハ半嶋と大洲と
續く處の狭き土地とハ
譬ハ亞細亞洲と阿非利
加洲と續く處と末洲の地
峽は南北亞米利加の界

小巴奈馬の地峽は
岬とハ海ホ突出したる陸地とハ阿非利加の
南の端ハ喜望峯は南亞米利加の端ハ
あふるんり
土地の高きものと山とハ但一地理學ホ於て
高さ千尺以上あるものと山と唱へ千尺以下の
ものハ岡とハ山の高さと幾尺と計るハ海面
よを勘定しとるものハ世界中の高山ハ印度
の「ひりや山」第一と其高さ三萬尺に近

即ち英吉利の里法にて五里余の高さを量れども
其の大ききと世界の大地の比較せしむれば地球の中徑千六百



分の一を譬へばさ
一渡り一丈六尺の玉
小五分をさるるの贅
うが如く地球の大
なるはと思ひ知るべ

火山と云ふ火を噴き烟を出さるるものと火山といふ世
界中小其數三百ありその内の二百は嶋國の山

廣き砂原は雨降らざれば草木生長せざらるもの
と砂漠といふ阿非利加荒火野の砂漠あり

日本はハ砂漠なり
大洋と外海の出入を貫ハ世界中の海は其

水の互小通ぜざらば夷やれぬといふれと一大洋と

いふり差支あき甚なりども地理の模様小由

かて五大洋とせしむる即ち太平洋阿多羅洋印度

大洋



洋北極洋南極洋出
もかそ一本篇は洋の
ハ唯て海と記し
字を用ひ見し
大洋の深さと詮索
せしむるもい
だ確かると知らざ
その底ふ凸凹あり

ハ陸小山阪りり如しその最も深き處も陸の
山の最も高きもの不等しかるべしといふ
海とハ大洋より狭くして其周圍小陸地の近き
ものといふ地中海黒海の如きありを



湖水ハ淡水の集り
るものなりその源を
河より流るる或ハ湖
の底より湧出するもの
も河を其出口ハ又河

北亞米利加の合衆國と金田との界



船の碇泊を便しと港と

不出て海へ入る世界第一の湖水ハ北亞米利加洲より入海とハ三方ハ陸地にて一方のみ外海へ

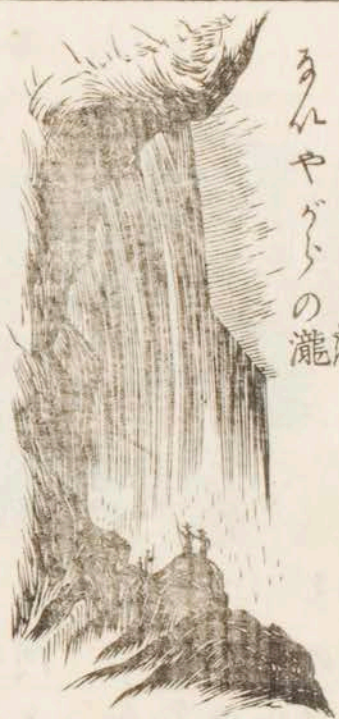
川谷



瀬戸とハ海と海と続く狭き處といふおぶらるたの瀬戸ハ阿多羅海と地中海と続く處より下

陸地の低き處より流る水と河といふ河の源ハ或ハ泉より出或ハ湖水より出

らんやがらの瀧



とかは次第に集り
て河となり又合
る大河とあり遂に
海へ入りなり南亞
米利加の「ヨマゼン」ハ世界第一の大河にして北
亞米利加の「ミシシッピ」ハ世界第一の長河なり
河の流る路まで俄に低き處へ落るものと瀧
といふ合衆國の「コロラド」ハ「アムヤガラ」と
いふ瀧の里高さ百六十尺世界中の名所なり

人間の地理

天然の地理ハ萬代不易にして開闢の始も今日

も大ひに異ならずとありさきども地球の面小

生息する人の了簡を以て其地面をから其界を

定て各政府を立すバ人民共よその為筋を思て

ざらものか一是即ち人間の地理ハ區別を生じ

世界中小國々の分る所以なり其の區別ハ固

く人の作せしものあれば万代不易ありを得

ざる由て師と起きその野心を抱て國を

盗むもの力を威力と以て土地を押領するもの
 力は是即ち諸國の盛衰興敗の變りる所以なる
 斯く人の意を以て勝手次第小定めたる國の界
 ハ必しも海陸山川の地理と目的とせざ或ハ
 唯双方の人況約束しし條約の書面不由ての
 其界を守らんとし然もとも事實の便利
 と謀る暴人の襲を防ぐとありハ大洋又ハ山川
 の筋を據て界を立ちと良とを
 本篇の始なりといふ如く世界中の人種を五小

かちその容貌知愚同トからざるは其の國々の
 風俗生産の道も亦一様あらざ

い 文明開化とハ都會を開き市町を立て住居の
 處と定め安樂の家小居を事々物々ハ順序と違
 へど心と勞し身と役し禮と重んじ義と貴ぶも

のといふ

あ 蠻野とハ住居と定めど水草と逐て處と移し
 或ハ牛羊と飼ひ或ハ鳥獸と捕て渡世するもの

のといふ

右二様のものと尚又細小區別をうけたる左の
 如し
 第一と渾沌といふ蠻野の内ふても最も下等の
 民もて鳥獸の仲間と外りくはと甚く遠く
 阿非利加の内地新ざんかゆふをうらやま
 どの土人ぬきなりもてしもふく廣き野原を排
 徊して獵澳と業とし或ハ虫と喰ひ或ハ野山を
 生トとる木の實草の根と食物とを其人の性質
 慈悲の心かくして互小相争ひ物事小迷ひ易く

して人の道と知らざる甚くざりきハ人の肉を喰
 ふものゆを其住居ハ常お家か一或ハ粗末なる
 小屋楸と作し一村の趣を成せみともゆをども
 便利次第ふて忽ち散トその痕跡も見だ農業を
 勤免ごまバ五穀を喰らば衣服も甚く見苦し
 くして大抵裸体の者多し其知識ハ固く狭く
 文字と知るを法律と知らざる禮義の道なく地面
 の區別あし斯く愚民の内おも矢張頭分のもの
 ゆもて大勢を支配しその取扱ひ甚く暴虐無

道

第二と蠻野といふ渾沌の民より一階上席か
 支那の北方韃靼荒火野又ハ北阿非利加の土
 民等あまを此種類の民ハ住居の家も天幕
 と張て雨露を凌ぎ或ハ家と作るとも甚と
 粗末なり水草の便利のためハ其天幕又ハ家
 作と携へて處を移るゝゆゑその食物ハ牛羊
 の肉と喰ひ其乳汁と飲ミ稍農業の道と心得て
 五穀と喰ふ者も蠻野の國ハ文字も

もみきと讀み書きを者ハ甚と稀なり藝術
 小至してハ最も拙くして道具仕掛の工夫を知
 らざ此人民と支配はるものハもとをゆると
 て家筋の人や下々の者ハ此の人を親介と
 君父として恭ひ尊びその法甚と不人情あり
 て暴
 第三と未開又ハ半開といふいまだ真の文明開
 化ハ至らざりてあつむ開けかゝるもの
 蠻野も較むバ遙々上等なり農業の道

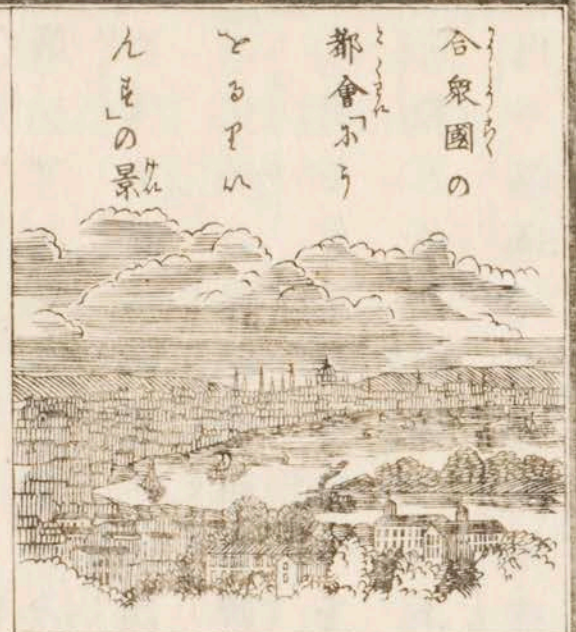
よく行届て食物多く藝術も進て次第小巧妙も趣
 き都會を開き家居と飾を文字學問の道も随分
 盛かを但一嫉妬の心深くして他國の人を忌
 嫌ひ婦女子と輕蔑一弱き者と苦一む風所を
 支那土留古邊留社等の諸國ハあつて開けり
 ものと云ふが
 第四と文明開化といふ禮義と重んぶ正理と貴
 び人情穩かして風俗やさしく諸職の術ハ日ハ
 新かして學問の道ハ月ハ進み農業を勤め工作

と勵む百般の技藝盡さがるものなり國民業と
 安んぶて天の幸を受け未頼母しく自から満足
 せよ亞米利加合衆國英吉利佛蘭西日耳曼和蘭
 瑞西等の諸國ハ文明開化の域ハ至るものなり

いふ

世界中ハ帝國あり王國あり公國あり侯國あり
 或ハ共和政治の國あり帝國とハ帝の支配を
 國ハ魯西亞、埃地利、佛蘭西の如きあり
 國とハ王の支配を國あり英吉利、普魯士、西班

牙和蘭の如きあきなりを公侯の國もあきお同ト
 共和政治の國とハ主君あく國中の人の申合せ
 おいて治むる國かを南北亞米利加洲の諸國瑞西
 理邊利屋の如きあきなりを
 國中の支配取締の便と謀を其地面を剛かかち
 郡よから縣よ分てもその名目ハ國々おて同ト
 からざもども事實お於て相異なりおとあ
 人民の多く集めて家と建て市町を開き一處と
 都會といふ亞米利加合衆國おて大都會と唱ふ



合衆國の

都會

の景

ち鬼ハ「ふりよるくふい
 きでるひやがふとん
 ちるちもふにりや
 ちいんち等かを都會の
 場所を撰ぶハ商賣の
 便利と謀を産物運送等

の模様は由てあきを定るものなり
 首府みやこ或ハ唯都みやことハ一國の政府のあり場所とい

ふ「あーんそんハ合衆國の首府なりろんどんハ

英吉利の首府あり
 政府の体裁とハ其國を治むる法の立方といふ
 其の種類三あり
 第一を「もなつき」といふ立君の義あり立君とハ
 一人の君を立て、其國を支配するあり
 一ハ英吉利佛蘭西魯西亞其外の國々ハ皆立君
 立國あり立君の政体を又二種あり一を定律
 立君といふ國君一人あり政事を自由おせど國
 内の議事院にて評定所を開き國中一同の入札

あり人物を選び毎年その評定所お集めて法律
 と定め掟を設け一人の君とて國の掟を破
 得ざるありたものなき譬へど其國の君
 不行状あり奢を極め或ハ妄お師を起して國中
 へ用金をやひ付んとするも議事院の評議お
 決して許さず都て君の威權ハ甚ど弱く國を
 先おして君を後おするの趣意あり英吉利和蘭
 西班牙等の如きみせあり又一種の「もなつき」と
 獨裁立君といふ國お君を立ての君一人の勝手

次第ついでおて政事せいじを捌はかき國民こくみんの生命いのちも君きみのものな
 るとゆひ上あさる人の意いお背かへけバ罪つみせり者ものをも
 殺ころすはとゆひ國民こくみんの家藏いっくら身代みしろも君きみのものなり
 とゆひ上あさる人の見み次ついでおて妄あや小年せうねん貢運くわんうん上
 を取と立て或あるハ罪つみお陥おとし入いもて欠所けつじょおとさめとゆ
 何事なにごとも一人ひとりの了簡りょうかんおて天下てんかを私わたくしをるものな
 里魯西亞ろろしや土留古支那とれこしな等の如ごとく其君若そのきみごとく賢明けんめいお
 り人物じんぶつおてよく心をこころ用もちむバ國治こくちらざるおゆ
 ざれども萬一まんいち無學むがく文盲ぶんもうおて自みづか憊げお増長ぞうちやうをる

きハ民たみの雅淡みやうたん一方ひとへなりむはあをを暴君おろくくんといふ
 第二だいにの政体せいだいと貴族きぞく合議がうぎといふ家柄いへがらの貴たかき人々
 寄集よひあはりて政事せいじを取扱とら扱とらふものなり
 第三だいにと共和政治こわうせいぢ或あるハ合衆政治がうしゆせいぢといふ國中こくちゆうの人
 民たみ申合まをおて政事せいじを捌はかくものなり共和政治こわうせいぢの趣おも
 意いハ此こゝの世よお生なまさる人ひとと同等どうとう同格どうかくのものなり
 定め其論そのろんお云いふ九こゝと人ひとたるものハ各おの各おの精せい心しんなり
 身体てんたいゆき貴たかき人ひととて此こゝ精せい心しんを二ふた通具とおうぐふさふさ
 りむ手足てしゆと八本はつぽん持もちおもゆむはさるる天然てんぜんお

貴賤のりちるるにふかき一況して歴代の家柄の
 こと口實おしてたましく其人小才徳ゆをバ格別
 かきども若し然らばして唯其位の人の上
 立ち心ハ賤くして我侪を逞みまらば下々
 の者ハたと一人小勝れまら才徳ゆも暴人の
 下小恐入る百姓町人ハ汗と流して家業と營
 一錢づつ貯へまら金ともかいらば驚おまら
 如くいつの間かハ取上らま上の人の我
 終放盪おえ入るまら姿かまバ大ひ小天理は度色

畢竟世の中ハ政府を立ちま國中ハ不正を
 事の行ハまざらふ人々の生命の危うらまら
 らふ其身代を失まらば終らふ他國の侮を受けま
 らふ其取締をか其守護を設まらめハ役人
 ともありらハ武備とも整へ農工商をその入
 用と拂ふ訳あまバ譬へバ下々の者ハ金と拂ふ
 て物を買ふが如し直段ハ成丈け安くして品柄
 ハ成丈け上物と選べまら苦なり然るハ其代金を
 かを渡して品物とまらまらで請取らぬのまら却

て其金をたゞ奪ひし者のさめ小痛らるるや
 のふとゆきてハ以ての外なり害ゆきて益なり
 故小貴賤上下歴代家柄やその話ハ打
 止り人々其天然の心を勞し其天然の身と働
 一人の妨とあさざりて共々小其身を守り其
 父母妻子と養ひ其家と治め其國を建て趣意
 き命令と下すもの毛なく趣意なり貢税と取立
 るものもなく天下太平國家安全と致す也
 右の議論小擧もバ政府もなきて済む事なり

ちきども人の心の同トからざるハ其面体の各
 異なるが如し且天下の人萬人ハ万人皆善人
 もゆとさきハ争論なり能く故は國中の
 人申合せ入札と以て人物を選び政事の頭取と
 立て評議の役人とゆひ付け在役の年限中ハ相
 當の給金を取らして政を為さしめ専ら國中一
 同の便利を謀り外國へ對して侮を受けど國威
 と海外おきて耀るをを趣意とせし亞米利加合
 衆國おてハ此頭取とふとトてんとといふ在役

禁偽版

官許 明治二年己巳八月

慶應義塾

藏版

岡田屋嘉七

賣弘

亞米利加合衆國議事院の圖



世界國盡附録終

上席の者ハ六年交代下席の者ハ二年交代なり

四年交代一年の給金二萬五千どらるるを評議の役人ハ上席と下席と兩様あり

福
13-1
著作

2